

## コラム 緑化植物 ど・こ・ま・で・き・わ・め・る

### ヒサカキ (*Eurya japonica* Thunb.)

今西亜友美 (京都大学大学院地球環境学堂)  
makinoa@kais.kyoto-u.ac.jp



ヒサカキ (*Eurya japonica* Thunb.) はツバキ科ヒサカキ属の常緑小高木または低木で、本州(青森県を除く)、四国、九州、沖縄、朝鮮半島南部に分布する<sup>7,8)</sup>。生育範囲は大変広く、暖温帯の二次林から極相林までいたるところに生育する。生垣や庭木にもよく用いられ、枝葉はサカキの代わりに神前に供えられることもあり、身近な植物の一つである。雌雄異株性であることがよく知られているが、完全な雌雄異株ではなく、両性花をつける個体が存在する不完全な雌雄異株である。花期は3~4月で、淡黄色の花が下向きに咲き、雌花のほうが雄花より小さい。花には独特の臭気があり、春先に山を歩いているとすぐに分かる。枝当たりの花芽数は光条件によって制限され、明るいほど多くの花が咲く<sup>1)</sup>。果実は直径4~5mmの球形で、10~11月に紫黒色に熟す<sup>7,8)</sup>。果実あたりの種子数は花粉の量によって制限される<sup>1)</sup>が、およそ20個前後である。種子は暗褐色、長さは約1.5mmである<sup>7,8)</sup>。ヒヨドリ、シロハラ、ムクドリ、メジロなどの鳥によって散布される<sup>5)</sup>。

実生は伐採跡地や森林表土撒き出し緑化地でよく発生する。採取した果実を袋に入れて5ヶ月ほど冷蔵庫で保管した後に行った発芽実験では、30~40%程度の種子が発芽したことが報告されている<sup>4,5)</sup>。しかし、果実のままでは発芽しない<sup>5)</sup>。種子の発芽には、光は関係しないが<sup>4)</sup>、土壌水分が低いと発芽力が著しく低下する<sup>2,6)</sup>。表土や倒木上ではよく発芽するが、リター上ではほとんど発芽しない<sup>4)</sup>。なお、温度を27.5℃に保った発芽実験では、雌花由来と両性花由来の種子の発芽率に差はなかったことが報告されている<sup>4)</sup>。発芽時期は主に6~7月であり、実生の成長は10月上旬には停止する。発生当年の実生の伸長量は小さく、筆者が調査を行った伐採跡地では平均2.5cm程度であった<sup>2)</sup>。展葉数も同様に少なく、林床などの光条件の悪い場所では約3枚(子葉2枚と本葉1枚)、伐採跡地などの光条件の良い場所で約5~7枚である<sup>4)</sup>。当年生実生の枯死率は、林床では60%程度、伐採跡地では10~30%程度である<sup>2,4)</sup>。埋土種子の寿命は1年未満とされているが、もっと長い寿命を持つ可能性が報告されている<sup>5)</sup>。



ヒサカキは萌芽能力も旺盛で、照葉樹林帯の二次林でよくみられる。秋期に伐採した場合に比べ、冬期から春期に伐採したほうが萌芽再生率は高い<sup>2,3)</sup>。冬期から春期に伐採した場合、主に5~8月に萌芽再生する<sup>2,3)</sup>。萌芽再生には光条件は関係なく、ある一定の積算温度が必要であると考えられている<sup>3)</sup>。一株あたりの萌芽枝本数は約10~20本であり<sup>2,3,4,9)</sup>、伐採前の個体のサイズや樹齢には依存しない<sup>3,9)</sup>。筆者が調査を行った伐採跡地では、伐採当年の萌芽枝の伸長量は平均10cm程度であった。萌芽枝の伸長量は、展葉後の光合成量に依存していると考えられており<sup>3)</sup>、光条件が悪いと成長が遅い<sup>2)</sup>。また、光条件が良い伐採跡地では、伐採後3年目に萌芽個体からの開花・結実が確認された<sup>2)</sup>。ヒサカキの果実は鳥をよく誘引するので、法面などの攪乱地に根株を移植して利用したい種である。

#### 引用文献

- 1) 肥後陸輝 (2002) 低木種ヒサカキの果実生産を制限する要因, 日本生態学会誌, 59: 1-9.
- 2) 牧野亜友美 (2003) 里山における人工ギャップ創出後に出現する木本植物のダイナミクスに関する研究, 京都大学大学院農学研究科修士論文
- 3) 真鍋 徹・山本進一・千葉喬三 (1991) 伐採当年のヒサカキ (*Eurya japonica*) の萌芽再生, 日本緑化工学会誌, 16 (4): 1-9.
- 4) 真鍋 徹・山本進一・千葉喬三 (1991) 攪乱跡地におけるヒサカキ (*Eurya japonica*) の実生定着と萌芽再生, 日本緑化工学会誌, 17 (1): 27-36.
- 5) 真鍋 徹・山本進一・千葉喬三 (1993) コナラ二次林におけるヒサカキ (*Eurya japonica*) の種子散布特性, 日本緑化工学会誌, 18 (3): 154-161.
- 6) 中村彰宏・衣笠斗基子・陣門泰輔・谷口伸二・佐藤治雄・森本幸裕 (2002) 埋土種子密度, 種数, 多様度指数—面積曲線による森林表土撒き出し緑化の評価, 日本緑化工学会誌, 28 (1): 79-84.
- 7) 佐竹義輔ほか編 (2001) 日本の野生植物木本I, 平凡社, 147 pp.
- 8) 高橋秀男・勝山輝男監修 (2000) 樹に咲く花—離弁花2 (山溪ハンディ図鑑4), 山と溪谷社, pp. 188-189.
- 9) 山瀬敬太郎 (2000) 松枯れ激害地における伐採強度の差による主要構成樹種の萌芽再生の比較, ランドスケープ研究, 63 (5): 465-468.



落葉樹林内のヒサカキ。樹高は約 3m。



庭園に植栽されて刈り込まれたヒサカキ。  
樹高は約 60cm。庭園の名脇役だ。



びっしりと果実をつけたヒサカキ。



ヒサカキの種子（左）と果実（右）。



サカキ（左）とヒサカキ（右）の葉。ヒサカキにはふちに浅い鋸歯がある。



植物園でみつけたヒサカキの園芸品種。斑入り  
の葉がとてもきれいだった。